

**「ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル」**

**提案書**

**～子どもファーストなまちづくり～**

**2024年3月13日**

**「ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル」**

**委員一同**

目次：

1. はじめに	P 2
2. 「ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル」の概要	P 3
3. 提案	P 6
4. 付録 委員アンケート結果（抜粋）	P 20

## はじめに

私たちは2023年7月から12月まで、4回にわたって「ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル」に参加し、「子どもファーストなまちづくり」をテーマとして議論を重ねました。住民基本台帳から無作為で選ばれた35人と、市内に在学中の3人の学生の合計38人が2つの班に分かれて話し合いました。年齢・性別・職業など多種多様なメンバーで話し合うと、意見や考えも様々で、毎日が発見の連続、委員同士がお互いに良い刺激を受けながら全4回を終えることができました。

東大阪市は、「子どもファースト」（子どもの権利と利益が最優先）を打ち出し、「家庭に子どもがいるいないにかかわらず、社会全体で子どもや子育てを応援できるようなまち」をめざしています。子どもの権利と利益を最優先にするのは子を持つ親だけでなく社会全体だということが明確になっていますし、何よりこのように市の考える「子どもファースト」を明示することは非常に良いことだと思います。

そのうえで私たちも、子どもファーストとは何か？を考えていきました。その中で「子ども目線」と「子どもを中心に置いて」がキーワードとなりました。子どもの立場になって考えることや子どもの目線になって物事を見ること、子どもを真ん中に位置付けたうえで、色々な人や組織はどのようにつながる必要があるのかを考えることが、子どもファーストなまちを作るうえで必須だと感じます。

市では、昨年10月、「東大阪市子どもファースト推進本部」を立ち上げました。推進本部で様々な取組みを考える過程の一部に、ぜひ「子ども目線」と「子どもを中心に置いて」を念頭に置いていただきたいと思います。私たちがそうだったように、2つの視点で考えると、普段は見えてこない障害や事象が見えてきます。そうすれば、机上の空論ではなく現実感と納得感のある子どもファーストな取組みが実現できるはずです。

最後に、今回まとめた7つの提案すべてが実現できれば、東大阪市は全国から人が押し寄せるほど「素晴らしいまち」となると思います。この提案書を有効活用していただくことを望むとともに、私たちも、今回の「ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル」を契機に、今回のテーマだけでなくまちづくり全体について、これまで行政頼みになっていたことを「自分ごと」として捉え続け、できることから実践していきます。私たちと一緒に子どもファーストな東大阪市を作っていきましょう。

2024年3月15日 ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル委員一同

## 2. 「ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル」の概要

2023年7月から、「子どもファーストなまちづくり」をテーマに、無作為抽出によって集められた住民による議論を行いました。

### 会議参加者

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無作為抽出住民 35名*</li> <li>*住民基本台帳より無作為に選ばれた2,000名の中から参加した方</li> <li>・市内大学在学学生 3名</li> </ul>
コーディネーター	<p>A班</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊藤 伸 氏（構想日本 総括ディレクター）</li> </ul> <p>B班</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定野 司 氏（構想日本 特別研究員）</li> <li>・柏崎 亮太 氏（構想日本 外部パートナー）</li> </ul>
ナビゲーター	<p>【専門家の立場から議論にあたっての論点の提示や話題を提供する役割】</p> <p>A班</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・林 恵子 氏（NPO 法人ブリッジフォースマイル 理事長）</li> </ul> <p>B班</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定野 司 氏（構想日本・特別研究員/元東京都足立区教育長）</li> </ul>

### 委員名簿

小田 薫	叶田 沙香	川本 歩夢	小林 一仁	阪田 充弘	新谷 宗玄
竹田 千恵	タム 愛	豊永 紘之介	中西 美奈子	平野 杏	白 智浩
山西 深香	山本 海斗	一森 巧光	梅田 実	籠谷 まゆ	金谷 祐紀
齋藤 貴	佐伯 美空	坂平 綾美	キロング マリア ジェンデル ヴァリン イバサン	田畑 恵美	西嶋 良志男
松永 愛雪実	三宅 豊	山口 愛里	山本 千尋	和知 敦子	—

※掲載に同意をいただいた委員の氏名を掲載

## 各回会議概要

第1回	【2023年7月30日（日）9：30～12：00】 ・開催趣旨の説明、東大阪市の現状説明（市） ・自分ごと化会議の説明（構想日本） ・グループに分かれて、自己紹介など
第2回	【2023年9月2日（土）9：00～12：00】 ・グループに分かれて「子どもファーストなまちづくり」について協議 ・「改善提案シート」の記入など
第3回	【2023年11月18日（土）9：00～12：00】 ・ナビゲーター講演（各班） ・グループに分かれて「子どもファーストなまちづくり」について協議 ・「改善提案シート」の記入など
第4回	【2023年12月23日（土）9：00～12：00】 ・提案書（案）について協議 ・意見提出シートの記入など

## 会議風景



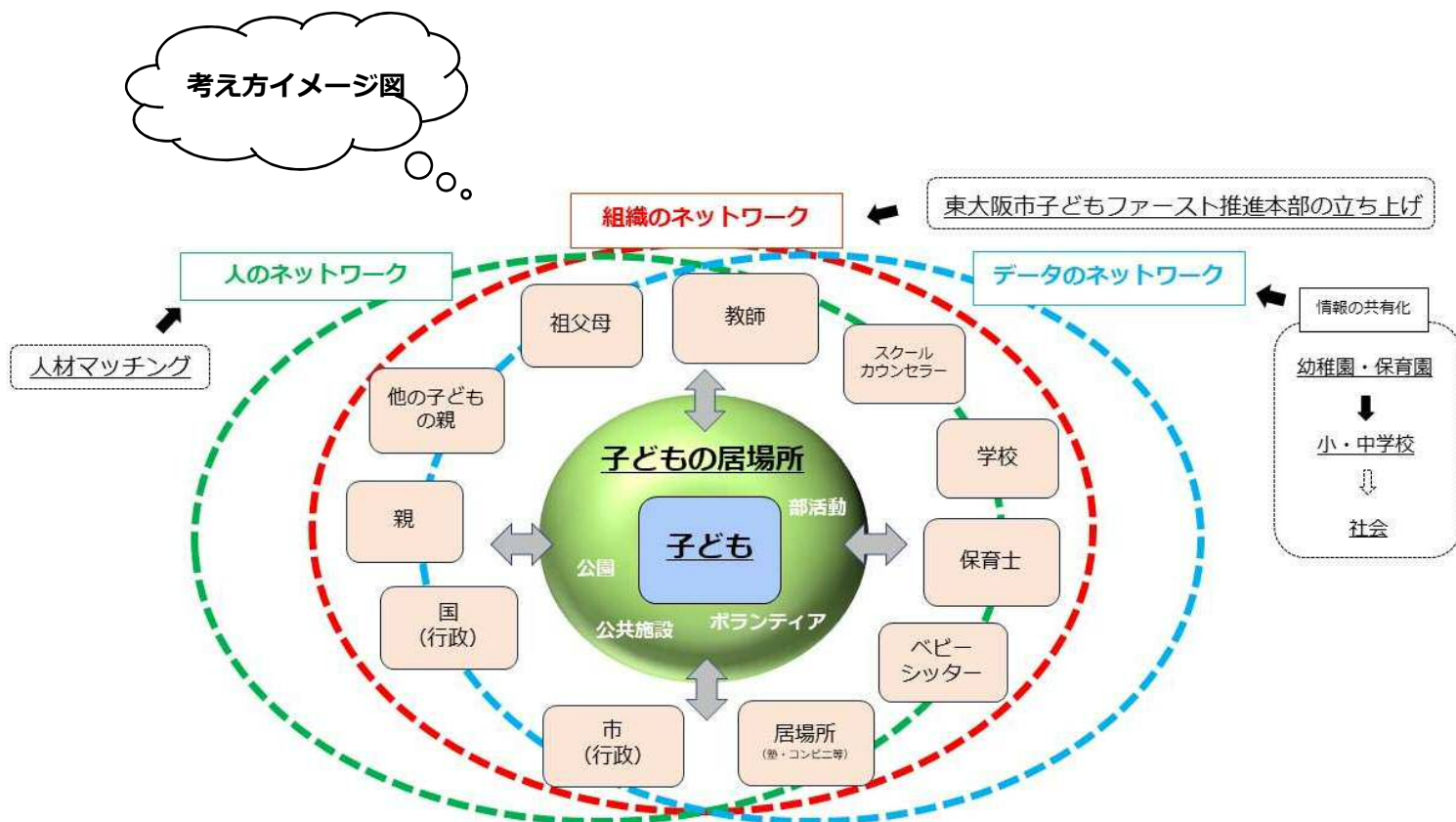


### **3. 提案**



私たちは、「子どもファーストなまちづくり」をテーマに、東大阪市がめざす姿、①子どもが笑顔で暮らせるまち、②安心して子育てできるまち、③いつまでも住み続けたいまちを実現するため、「子ども目線で」、「子どもを中心に置いて」、この2つの視点から現状まちが抱える課題を整理し、改善策を話し合った結果、7つの提案が生まれました。次頁以降で、これらの提案を、「私たち住民」「地域」「行政」「その他関係機関」のそれぞれの主体が取り組んでいくことに分けて記載しています。

私たちの提案を図示すると、次のようなものになります。



ポイント：①双方向のアクセス、②相談窓口のワンストップ化、③接続部分が重要

子どもファーストで考えたとき、まず、家庭や学校などの教育機関以外に安心できる第三の居場所があること。そして、子ども同士、あるいは保護者や先生以外の第三の大人と交流できる、魅力ある居場所が必要です。現在、様々な組織（機関）が、様々な居場所を提供していますが、それらが必ずしも有機的につながっているわけではありません。子ども目線に立つと足りないところもあり、全ての居場所がインクルーシブな環境とは言い切れません。必要な場所を必要な子どもに届けるために、「組織のネットワーク」と「データのネットワーク」が必要であり、これらができると、子どもたちに手を差し伸べる「人のネットワーク」を構築することができます。子どもを見守り、育むのは、「人」です。これら3つのネットワークが、私たち市民を「子どもファースト」に導くのです。



# 子ども目線で、子どもを真ん中において、

## 子どもファーストを考える。

提案

1. 子どもに迫る危険をなくして、子どもの安全を確保する

提案

2. 子どもが自ら相談しやすい環境をつくり、さらに組織間のつながりを強くしてワンストップでの相談対応ができるようにする

提案

3. 子どもの特性や関わり方などの情報を多くの組織が共有できるネットワークをつくる

提案

4. 経験や知識を持つ大人と子どものつながりをつくることで多様な体験ができる機会を創出し、子どもの可能性を伸ばす

提案

5. 子どもの健康的な生活の実現のため、インターネット依存に陥らないように、適切な付き合い方を伝える

提案

6. 公園や遊び場のあり方を見直すなどして、自由で魅力的かつ安全・安心な子どもの居場所をつくる

提案

7. 上記の提案実現に向けて、目標を設定して効果検証を行うとともに、子どもの声を聴く場をつくり、子どもの意見を反映できる仕組みをつくる

## 1. 子どもに迫る危険をなくして、子どもの安全を確保する

市内の交通マナーは必ずしも自慢できるものではないこと、他方で、それによって、大人には気づかない多くのリスクを子どもに負わせていることがわかった。こうしたリスクから子どもを守るためには、歩道や自転車専用レーンの設置などのハード面整備と、(車いすの目線が子ども目線に近いので)車いす体験による子どもの危険項目の洗い出しのようなソフト面の取組みの両方の充実が必要である。子ども目線の体験は、想像ではなく現場を起点とした子どもファーストな取組みが実現できる。これらの対策で子どもにとって安全な東大阪市をつくる。

### 「提案1」の実現に向けて、それぞれが行うこと

#### 私たち住民

- ① 暗くて危ない道や場所を把握する。
- ② 子どもに危険が迫っていると思ったら、思い切って声をかける。
- ③ 交通マナー向上を図るため、学び直す。安全運転を意識し実践する。

#### 地域

- ① 通学路を中心に、危険な物、人、事がないか見回りをする。
- ② 保護者同士で交通マナーの話をして交通安全に対する雰囲気醸成する。
- ③ 地域ぐるみ、家族ぐるみで子どものために交通マナーを守る。

#### 行政

- ① 自転車レーンを増やす(メインの移動手段が自転車だと危険が多い)。
- ② 街灯を増やす、横断歩道の設置や道路の整備、歩者分離式信号の設置などによって子どもを危険から守る。
- ③ 企業や地域の方々を集めてマナー講習をする。
- ④ いざという時にお店や家に駆け込める「こども110番」の拡大を図る。
- ⑤ 中学校や高校でVRやカースタントを活用するなど、交通安全教室を印象に残すための工夫をする。
- ⑥ PR大使や有名なインフルエンサーを起用し、交通マナー向上のため情報を発信する(XやInstagramなど若者の目に留まりやすい媒体を中心に)。
- ⑦ 大人対象に車いす体験会を企画し、子ども目線によるリスクを多くの市民に感じてもらう。
- ⑧ 学校の授業で子どもの支援活動を行うNPO団体等を紹介するとともに、学校や通学路にホットラインの横断幕を掲げて周知を図る。
- ⑨ 学校に対して、児童問題を理解している人(専門家や相談機関)など、子どもにとって安全・安心な場所の情報提供をする。

2. 子どもが自ら相談しやすい環境をつくり、さらに組織間のつながりを強くしてワンストップでの相談対応ができるようにする

「先生から子ども」、「行政から子ども」といった一方通行の関係性ではなく、例えば、子どもに悩みがあった時は、アプリ等を使って自らが先生や行政に発信でき、そのサインに素早く対応できるような双方向のつながりが大切である。また、相談窓口のワンストップ化を行うことで子どもが相談しやすい環境をめざす（ただし、ワンストップ化には1か所で様々な問題に対処しなければならないため、組織間のつながりの強化は必須である）。

「提案2」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち住民

- ① 市内で大人と子どもが対話したり、触れ合いができる場所を調べる。
- ② 気づきがあったら市や学校に知らせる。
- ③ どのような窓口があるかをホームページなどで調べ、発信する。
- ④ 児童福祉サービスの広報のためのラッピングカーを検討し、広告のサンプルを作る。
- ⑤ 子どもが相談しやすくなるよう関係性を作るためにイベントに参加する。
- ⑥ 家庭で自分の子どもがいじめをしていないか、されていないかを確認する。
- ⑦ 様々な環境の子どもがいることをもっと知り、深く理解する。

地域

- ① 地域で子どもを見守り、虐待などを発見したら各相談窓口へ連絡する。
- ② 子どもや保護者に相談窓口の存在を知らせる。
- ③ 相談機関を広報するにあたって、デジタルメディアのみではなくチラシ（ポスティング）やポスターなど紙媒体も有効利用する。
- ④ 通学路を歩く子どもたちを注意深く見るようにして、いじめがあれば声掛けをする。
- ⑤ 虐待が起こらないように保護者、地域コミュニティの中で見守る。

行政

- ① 小・中学校で貸与されているタブレットに、市の公式「子ども向けLINE」や相談窓口などを入れた「子ども専用アプリ」を搭載する。LINEはグループで意見交換できるようにする。
- ② 広告を利用し、検索ワードで「東大阪」と入れると子どもの相談に関するweb広告が出るようにする。

- ③ 写真やイラスト、動画などを使いながら市ウェブサイトや市政だよりだけでなく、アプリや SNS でも相談窓口の情報を発信する。
- ④ 専門職などによるなんでも相談できる窓口の設置を検討する。
- ⑤ 学校でいじめの課外学習の時間を設け、具体的にどういう言動がいじめに該当するかを学ぶ。

## その他

- ① 企業などから積極的に関わっていく。
  - ② 会社として社員の子どもに関心を持ち、支えるための工夫をする。
-

### 3. 子どもの特性や関わり方などの情報を多くの組織が共有できるネットワークをつくる

子どもの個々の特性や、その関わり方について、保育園や学校、市役所など、組織間での情報共有がまだできていない。政府では子どものデータ連携の議論が進んでいるので、これを注視しながら、セキュリティに十分配慮されたネットワークを構築する。特に、障害を抱えた子どもについては、成長する上で通過する幼保、小中の各教育課程はもちろん、その後のライフステージでも必要に応じて情報共有し、大人になっても不自由を感じるここのない環境をつくる必要がある。

#### 「提案3」の実現に向けて、それぞれが行うこと

##### 私たち住民

- ① 知り合いの先生などから、学校をはじめとする組織間の共有についての現状を知る。
- ② 親の子育てのストレス発散や休憩できる場所の導入を要望する。
- ③ 人のネットワーク、データのネットワークに触れ、自らできることを見つける。
- ④ 個性を見たり伸ばしたりすることを意識する。

##### 地域

- ① 親の子育てのストレス発散、休憩できる場所を探して、その場所があることを地域ぐるみで案内する。場所を提供する。
- ② 子どもの権利を大切にするとともに、子育て中の親を地域で守る。
- ③ 人・データのネットワークがあることを周りに教える。
- ④ 地域として周りから当事者をサポートできるネットワークをつくる。

##### 行政

- ① 組織間で情報を共有できるネットワークなどの仕組みを検討する（国にも相談する）。
- ② アンケート調査等の情報がどう活用されているのかを見える化する。

##### その他

- ① 日本語を学んでいる外国人と子どもと一緒に学び、外国語に触れる機会を増やす。
- ② 外国人にコミュニティに参加してもらう。
- ③ 小中学校で実践的な外国語コミュニケーションの授業の時間を増やす。

## 4. 経験や知識を持つ大人と子どものつながりをつくることで多様な体験ができる機会を創出し、子どもの可能性を伸ばす

子どもの頃の体験はその後の人生に大きな影響を与え、子どもが持つ可能性を広げることにつながるため、職業体験やボランティア等の機会を企画して様々なヒト、コト、モノに触れる環境をつくっていく。その際、行政は経験や知識を持つ大人と子どもをつなぐ役割を担うことが重要である。また、子どもとの関わりを積極的に持ち、協力したいと希望する市民は潜在的にはいるが、そのような場や機会が少ない。子どものニーズを把握しながら、支援を必要としている人と提供したい（できる）人のマッチングができるのは行政の強みである。行政がコーディネート役となって仕組みをつくり、東大阪市全体で子どもを真ん中においた子どもファーストを実現する。

### 「提案 4」の実現に向けて、それぞれが行うこと

#### 私たち住民

- ① ヒト体験、モノ体験、コト体験の主体になるよう積極的に関わる。
- ② 学校卒業後も OB・OG として子どもたちの学習支援を行ったり、イベントや職業体験の企画、提案を行う。子どもと一緒に参加する。
- ③ つながりを持てる場所を作れるように意識を持つ。
- ④ 授業や課外活動で、自分の知識や経験が生かせることを掘り起こし、学校や教育機関と共有する。
- ⑤ 日本語教室に通う中で、受講生のアイデアをまとめて実行に移す。
- ⑥ 家庭で自分の子どもに仕事の話をする。
- ⑦ 子どもの好きなことや興味を持ったことが実現できるよう支援する。

#### 地域

- ① ボランティアの募集や参加できる場所を提供、サポートを行う。
- ② 課外学習を企画したり長期休暇中の宿題イベントを開催したりする。
- ③ 宿題などを世代問わずボランティアが見る仕組みを地域で作る。
- ④ 学校が体験学習など子どもたちの学ぶ機会を増やすための支援を行う。
- ⑤ 各種イベントやボランティア活動などをコミュニティ内で周知する。
- ⑥ 大人と子どもがつながりを持てる場所を作る、提供する（例えば保護者会を通じて、子どもが興味のある職業に就いている別な親と話をする機会をつくるなど）。
- ⑦ 地域の人が、自分が持っているスキルを使って子どもと遊ぶ。

#### 行政

- ① ICT 教育や体験学習の機会をより充実させるなど、子どもたちの将来の選択肢を増やす事業を実施する。

- ② 各学校の授業の内容や進捗状況を行政として把握する。
- ③ 学生を含めたスポーツ経験者による部活指導を促進する。退職者や経験者に部活の顧問などをしてもらう。
- ④ 就学支援や学習支援に必要な外部人材を確保するため、資格を持っているがフルタイムで働けない人材とのマッチングを図る。
- ⑤ 資格の有無に問わず、子どもとの関わりを持ちたい、協力したいと思う人が活躍できる環境・場所をつくる。
- ⑥ 学校と会社をつないで、職業体験の場を提供する。
- ⑦ 長期休暇などに、ラグビーやサッカー、野球などの体験ができるようプロチームに働きかける。
- ⑧ 学校で、長期休暇の前や月に1回程度、子ども同士で時間の使い方や将来したいことについて話し合う機会を設ける。
- ⑨ スポーツの力を借りて、学校体育館を利用するスポーツ団体と子どもの交流を促進する。

## その他

- ① 企業やNPOが仕事体験の企画を行うよう促す。
- ② 企業が学校を通じて、子どもに対して自社の仕事内容をPRする。
- ③ 会社見学など子どもたちのこれからの経験・選択肢になるような機会を設けるよう、積極的に検討する。



5. 子どもの健康的な生活の実現のため、インターネット依存に陥らないように、適切な付き合い方を伝える

児童・生徒に1人1台タブレットを配布しての授業や宿題を実施する政府のGIGAスクール構想やスマートフォンの普及、また、近年発売されるゲーム機はインターネットに接続して使うものが多いなど、子どもにとっては数年前と比べてインターネットに接続されているIT端末に触れる時間が格段に増えている。利便性が高まる反面、スマホやゲーム依存に陥り日常生活に支障をきたすケースが見られる。世界保健機構（WHO）は、ゲーム障害は治療が必要な依存症と認定している。子どもを依存症から守るため、家庭内でIT端末の使用ルールを作ることや、まずは大人が、子どもに模範となる姿勢を見せることが必要である。

「提案5」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち住民

- ① まずは、自身のネットとの付き合い方を見直す。ネットを使わない時間を作っているか確認する。
- ② 子どもと時間がある限り会話をする（ネットより楽しいヒト、モノ、コトをつくる）。
- ③ スマホとの向き合い方について家族との間で話す。
- ④ 子どもがいる時は、極力スマホを触らないようにする。
- ⑤ 家の中の約束事として、スマホやゲーム等に時間制限を設けるなど工夫する。

地域

- ① 地域で、屋外で子どもたちが自由に遊べる場所を作る。
- ② 地域でネット依存解消に取り組む。ネット以外で遊べる内容を考える。

行政

- ① ゲーム障害やネット依存を大きく取り上げる（WHOが国際疾病として認定していることを広く発信するなど）。
- ② 学校の授業でゲーム障害やネット依存を考える機会をつくる。
- ③ 体験の場や学校でスマホやタブレットの使い方を話し合う。

その他

- ① 行政と民間が共同でネット依存対策に取り組む。

## 6. 公園や遊び場のあり方を見直すなどして、自由で魅力的かつ安全・安心な子どもの居場所をつくる

100 を超える市内の公園のうち、管理が十分に行き届いていない公園があったり、公園や遊び場の場所を知らない子どもも多くいる。また、ボールや花火の使用禁止など利用制限があり、市民ニーズとずれが生じている公園もあることが会議の中で見えてきた。子ども目線で考えてその規制が本当に必要かなど、再検討が必要である。さらに、大型商業施設が地域にないため、放課後や休日に子どもが安心して過ごせる場所が少なく、公共施設や空き家の活用などによって、魅力的で安全・安心な子どもの居場所をつくらなければならない。

### 「提案 6」の実現に向けて、それぞれが行うこと

#### 私たち住民

- ① 自主的に公園の清掃を行う。
- ② 公園で遊ぶときは周囲に配慮する。
- ③ 危ない公園という固定観念をなくす。（若者がたむろしていて怖かった経験がある）
- ④ どこに公園があるか、公園で何ができるのかを把握する。
- ⑤ 身近な子どもたち（兄弟姉妹）に遊び方を提案する。
- ⑥ 子どもの居場所づくりに関して、市民の意見・要望を集める。
- ⑦ 子どもの視点で現在のルールについて考えさせて、なぜルールが必要なのか説明する。
- ⑧ 今ある場所の中から、放課後の居場所について、家族で考える。
- ⑨ サマースクール、ウィンタースクール、図書館や映画館に連れて行く。

#### 地域

- ① 子ども会の行事の時などに、地域で草刈りなどの清掃を行う。
- ② 遊び場のマップや安全な遊び方のアイデアなどのチラシを作る。
- ③ ルール・マナーの必要性をもう一度地域で考え直す。
- ④ 地域で開放している、もしくは開放できそうな場所を調べ情報提供する。
- ⑤ 公民館など地域の拠点施設を子ども優先で開放する。
- ⑥ 学校の空き教室や空き家で可能なスペースがあれば利用のお願いをする。

#### 行政

- ① 公園の環境美化や安全のために周りの歩道を含めて草刈りなど清掃を行う。予算がなければ企業に協賛のお願いをする。
- ② 子どもが喜ぶ、楽しく安全な遊具を設置する。暑さ対策のための日陰スペースをつくる。

- ③ 照明の設置など防犯対策を行い、公園内の治安維持に努める。
- ④ 見守る人を配置するなど公園の状況を定期的に確認する。
- ⑤ 公民館で子ども向けイベントを増やしたり、市内の遊び場でのスタンプラリーを実施したりする。
- ⑥ 学校を開放して遊び場として開放する（クラフトワーク・トールペイント教室の候補地として文化センターや旧学校校舎を検討するなど）。
- ⑦ 子どもたちが自分たちで考え協力し合えるイベントを開催する。
- ⑧ 子どもの遊びを制限するルールの見直しを検討する。
- ⑨ 住民に対して丁寧にルールを説明する仕組みを作る。
- ⑩ 家、学校のほかに子どもの投げどころ（サードプレイス）を増やす（NPO との連携や、使われていない土地などの活用を検討）。
- ⑪ 学童ごとに取組みに差があるので、地域の特色を考慮しながら、必要なものについては統一をする。
- ⑫ 子どもたちが立ち寄りやすい広い場所を確保し、わかりやすく情報提供する。

## その他

- ① 近くの企業が自主的に公園の清掃を行う。
- ② ラグビーやサッカーなどスポーツチームが公開練習を実施する。

上記の提案実現に向けて、目標を設定して効果検証を行うとともに、  
**7. 子どもの声を聴く場をつくり、子どもの意見を反映できる仕組みをつくる**

提案がすべて実現できれば、東大阪市は全国から人が押し寄せるくらい素晴らしいまちになる。実現に向けて、当事者である子どもの生の声を聴いてそれを反映する仕組み作りが重要である。大人が子ども目線に立つことは難しいからこそ、最終回にオブザーバーとして参加した中学生の発言は、多くの気付きがあり貴重だった。子どもの本音を聴く場を作る必要がある。さらに、成果目標を設定しフォローアップすることも重要である。本当に子どものためになっているかは、当事者である子どもに聞かなければわからない。子どもたちの声を聴くことで効果検証が可能になる。それらによって、「子どもファーストのまち・東大阪」ブランドの確立をめざす。

**「提案 7」の実現に向けて、それぞれが行うこと**

**私たち住民**

- ① (自分の子どもだけでなく) 子どもの生の声を聞くよう意識する。
- ② 「子どもに教える」だけでなく、「子どもから教えられる」姿勢を持つ。
- ③ 自分なりに成果指標を考えてみる。

**地域**

- ① 世代間で意見交換ができる場を設け、子どもの意見を取り入れる。
- ② 子どもをテーマにして行政と地域での意見交換の場を検討する(ただし、そのような場は市への要望ばかりになりがちなので自身に何ができるかという観点で意見をしてもらおうようにする)。
- ③ 定期的に地域の子どもたちに満足度の調査をする。

**行政**

- ① 行政と児童・生徒が意見交換できる場をつくる。
- ② 自分ごと化会議学校バージョンや、子どもたちを巻き込んだ自分ごと化会議など、「子ども議会」や「子ども委員会」の開催を検討する。
- ③ 市在住の子どもたちから無作為に意見を聞き、それによって新しく取り組むか、既存の取組みを継続していくかを検討する。
- ④ 子どもたちの声を反映する具体的な仕組みを庁内で検討する。
- ⑤ 目標設定をしたうえで評価できるようデータを積極的に取る(今だけでなく将来にわたって分析ができるのが望ましい)。
- ⑥ 様々な取組みについて、成功や失敗を他自治体と共有して事例を積み重ねていく。

## 上記以外の主な意見

### ● 市内外への情報発信

#### <私たち住民>

- ・ 自分自身が東大阪市の取組みをよく知る。
- ・ SNS を活用して「いいまち」を広める。
- ・ 当たり前のことが実はプラスであることやラグビーだけでないことを周りに話す。

#### <地域>

- ・ この自分ごと化会議を通じて声を上げる（バタフライ効果）。
- ・ 相談して良くなった体験談や事例を外に発信する。

#### <行政>

- ・ 地域や市の取組みをもっと発信して「子育てのまち・東大阪」をPRする（どのようなサービスあるかわかりにくい、市民に伝わっていない）。
- ・ 「東大阪市白書」のようなものを出すことを検討する。
- ・ 企業に、東大阪で働く理由や東大阪についてどう感じているかなどの意見を集めて発信するようなキャンペーンを行ってもらいたい（企業や社員の本音を集める）。

### ● その他

- ・ 妊産婦助成の拡充（健診以外の検査の費用の補助ができないか）。
- ・ 給食や市に携わる民間会社の待遇改善を考える必要。

## **4. 付録**

### **委員アンケート結果（抜粋）**



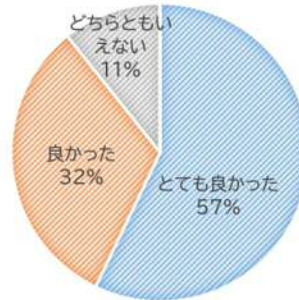
# ひがしおおさか 地方創生 ラウンドテーブル

## 第1回(R5.7.30実施) アンケート結果

出席30名 アンケート回答28件

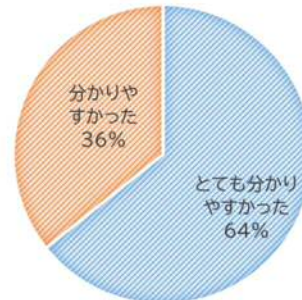
### 1.会議に参加参加してみていかがでしたか。

とても良かった	16
良かった	9
どちらともいえない	3
良くなかった	0
まったく良くなかった	0



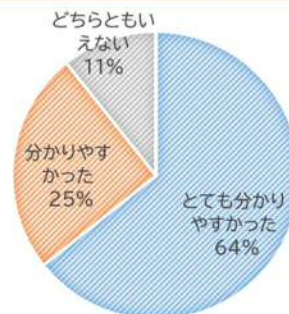
### 2.自分ごと化会議についての説明は、分かりやすかったですか。

とても分かりやすかった	18
分かりやすかった	10
どちらともいえない	0
分かりにくかった	0
とても分かりにくかった	0



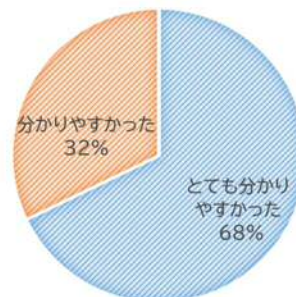
### 3.担当課からの説明は、分かりやすかったですか。

とても分かりやすかった	18
分かりやすかった	7
どちらともいえない	3
分かりにくかった	0
とても分かりにくかった	0



### 4.コーディネーターの進行やまとめ方は、分かりやすかったですか。

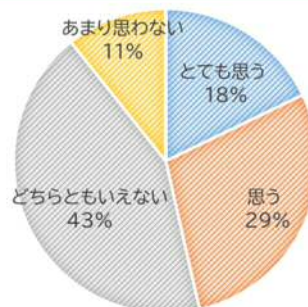
とても分かりやすかった	19
分かりやすかった	9
どちらともいえない	0
分かりにくかった	0
とても分かりにくかった	0





## 5. 東大阪市は子どもが住みやすい、子育てしやすいまちだと思いますか？

とても思う	5
思う	8
どちらともいえない	12
あまり思わない	3
まったく思わない	0



## 6. 今回テーマに掲げた「こどもファースト」なまちづくりを推進するためにあなたが必要だと思う取り組みがありましたら、ご記入ください。

- こども目線での危険物の撤去
- 病児保育
- 子供に接する大人の人数を増やす
- 子供の学力向上、教師の長時間勤務とスキル向上
- 子どもが気軽に行ける場所
- 子ども目線での意見を取り入れた取り組みを考えていく必要がある
- 子どもたちや親子が遊べる居場所を作る
- 子ども食堂の市の積極的な介入
- 子供が遊ぶやすい環境、施設、涼しい場所
- 安全にすごせる町etc.



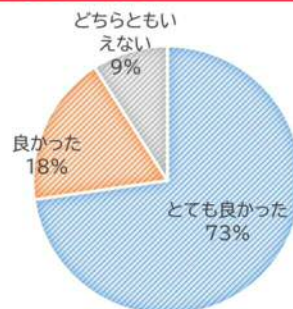
# ひがしおおさか 地方創生 ラウンドテーブル

## 第2回(R5.9.2実施) アンケート結果

出席24名 アンケート回答22件

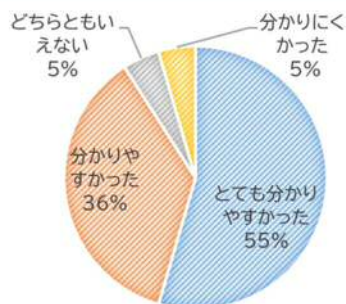
### 1.会議に参加参加してみていかがでしたか。

とても良かった	16
良かった	4
どちらともいえない	2
良くなかった	0
まったく良くなかった	0



### 2.コーディネーターの進行やまとめ方は、分かりやすかったですか。

とても良かった	12
良かった	8
どちらともいえない	1
良くなかった	1
まったく良くなかった	0



### 3.次回以降の会議に向けての要望や今日の感想等がありましたら、ご記入ください。

- 様々な意見が出てきて勉強になりました！！
- 参加者の意見がたくさん出てすばしかったです。
- 色々な発言させてもらってそれを良いて言って下さるので発言しやすい。次もどんな内容になるのか楽しみになる。
- 引きつづき、たわいのない、何気ない話を交えながら話が出来たらいいと思います。etc.



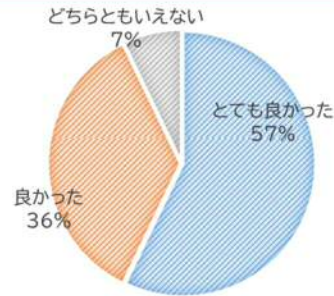
# ひがしおおさか 地方創生 ラウンドテーブル

## 第3回(R5.11.18実施) アンケート結果

出席14名 アンケート回答14件

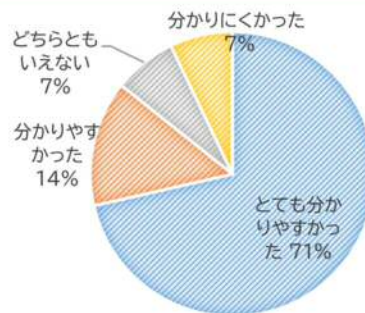
### 1.会議に参加参加してみていかがでしたか。

とても良かった	8
良かった	5
どちらともいえない	1
良くなかった	0
まったく良くなかった	0



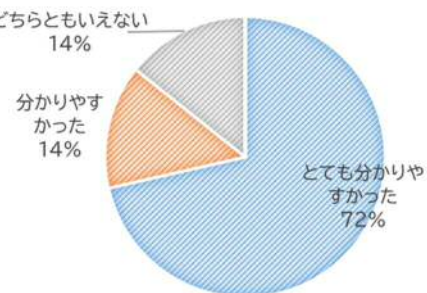
### 2.コーディネーターの進行やまとめ方は、分かりやすかったですか。

とても分かりやすかった	10
分かりやすかった	2
どちらともいえない	1
分かりにくかった	1
とても分かりにくかった	0



### 3.ナビゲーターの話は、分かりやすかったですか。

とても分かりやすかった	10
分かりやすかった	2
どちらともいえない	2
分かりにくかった	0
とても分かりにくかった	0



### 4.次回以降の会議に向けての要望や今日の感想等がありましたら、ご記入ください。

- 参加人数が少なかったなので、より個々の深い考えや視点を知ることができた。
- 次回までに何か1つでも自分でできる行動を起こすことができたらと思います。
- 次回もよろしくお願い致します。
- いつも楽しいです。東大阪市は子供に対して様々な施策をかなりやっていますので、あとは周知を期待しています。





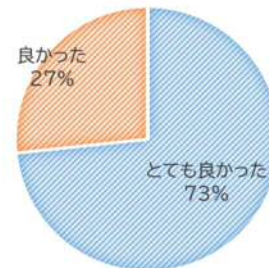
# ひがしおおさか 地方創生 ラウンドテーブル

## 第4回(R5.12.23実施) アンケート結果

出席20名 アンケート回答15件

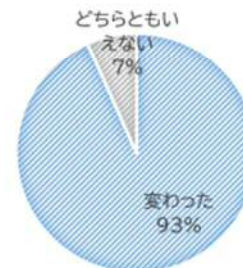
### 1.会議に参加参加してみているかがでしたか。

とても良かった	11
良かった	4
どちらともいえない	0
良くなかった	0
まったく良くなかった	0



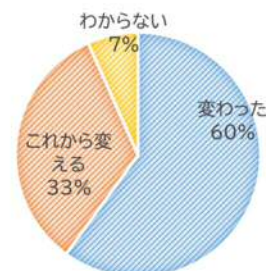
### 2.会議に参加したことで、意識に変化はありましたか。

変わった	14
変わっていない	0
どちらともいえない	1



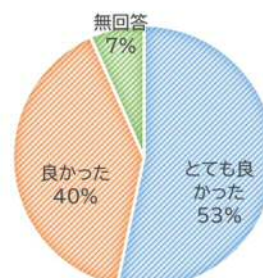
### 3.会議に参加したことで、行動に変化はありましたか。

変わった	9
これから変える	5
変わっていない	0
わからない	1



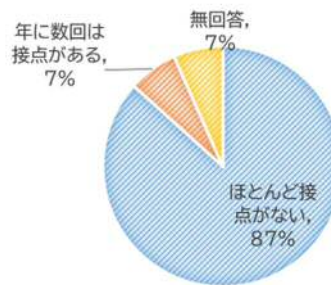
### 4.今回のテーマ「子どもファーストなまちづくり」は住民が考える内容として、どう思われますか。

とても良かった	8
良かった	6
どちらともいえない	0
良くなかった	0
まったく良くなかった	0
無回答	1



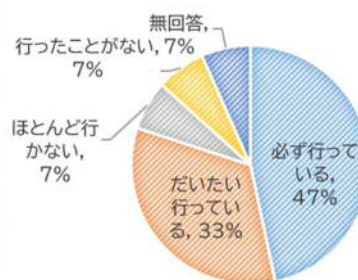
5.これまで行政とどの程度の接点がありましたか。

ほとんど行ったことがない	13
年に数回は接点がある	1
頻繁に接点がある	0
その他	1



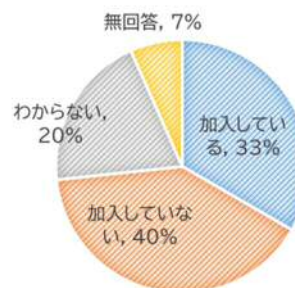
6.選挙の投票にはどの程度行っていますか。

必ず行っている	7
だいたい行っている	5
ほとんど行かない	1
行ったことがない	1
無回答	1



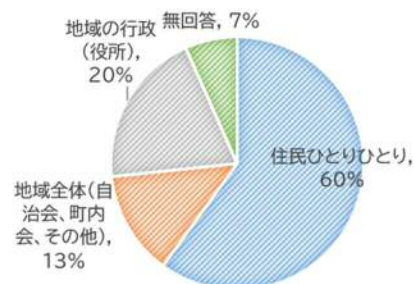
7.地域の自治会には加入していますか。

加入している	5
加入していない	6
わからない	3
無回答	1



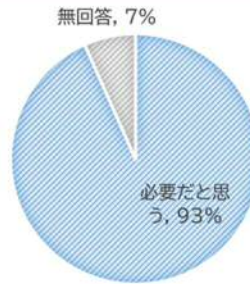
8.町を住みやすくするために最も主体的に行動すべきだと思うものは次のうちどれですか。

住民ひとりひとり	9
地域全体(自治会、町内会、その他)	2
地域の行政(役所)	3
地域の政治(議会)	0
地域の民間企業・NPO等	0
無回答	1



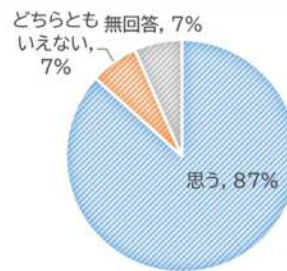
9. 今回のように、無作為抽出の手法を使って議論するやり方についてどう思いますか。

必要だと思う	14
必要だと思わない	0
無回答	1



10. 今後、住民同士でまちの課題について議論・意見交換ができる場があれば参加したいと思いますか。

思う	13
思わない	0
どちらともいえない	1
無回答	1



11. あなたにとって今回のテーマにおける「自分ごと化」はどのようなことでしょうか。

- 子ども目線で様々なことを考えていく。
- 自分にできること、やらないといけないことを明確にしていく。「これをやる」と自分で確定させていく。
- 相手の立場になって考える。
- 日々の生活で実行できること。
- 直接関わってなくても様々なつながりを通して子どもや親の世代、色々な方々と街の中で繋がっているのだという意識を持つことで、自分にもできることがあるということ考えることであると思います。
- 一人ひとりが継続的に小さなことでもいいから今回のテーマについて何かアクションを起こすこと。
- 「子ども」ではない自分が、その立場だった時のことを思い浮かべ、どうすれば毎日楽しく過ごせるのかを考えることです。etc.

12. その他、ご意見や感想等ございましたら、ご記入ください。

- 私は来年から東大阪市を離れることにはなりますが、また帰って来たいと思う街です。帰ってきた時に今回のラウンドテーブルの子どもファーストが街に浸透していてくれれば嬉しいなと思います。東大阪市には期待しかないと思います。
- 今回はありがとうございました。本当に感謝しています。自分ごと化して今後もアクションを起こし続けたいと思います。あとは、無作為抽出だとどうしても参加率が低下する、モチベーションが低い方がいることが今後の課題かなと感じました。引き続きよろしくお願いいたします。
- 全4回の議論に参加させていただき、誠にありがとうございました。自分なりの意見を出してみようとしたが、他の参加者の方々のまとまった意見を聞くと、自分の考えた意見が拙いものを感じたため、発言に及び腰になっていたことを反省しております。東大阪市職員の方々におかれましては、お忙しいとは思いますが、是非、「子どもファースト」なまちづくりを実現していただきたいと思えます。